

受賞おめでとうございます。

埼玉医科大学病院 山崎 富雄氏

埼玉石心会病院 間山 金太郎氏

済生会川口総合病院 富田 博信氏

三人の方が、埼玉県知事表彰を受章致しました。

## 埼玉県知事表彰を受賞して

埼玉医科大学病院  
山崎 富雄

このたび、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の推薦により、平成30年度第62回埼玉県公衆衛生大会にて医療功労者として、埼玉県知事表彰受賞の榮譽に浴することができました。

今回の受賞は、田中会長をはじめ公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会員諸氏から賜りましたご指導ご鞭撻、ならびに職場の諸先輩や仲間からの温かいご支援による受賞であると、深く感謝致しております。

私は昭和57年4月、埼玉医科大学病院に入職後、36年間にわたり、一貫して毛呂山キャンパスに診療放射線技師として勤務し、放射線画像技術の目覚ましい進歩の過程を日々研鑽を重ねる優れたスタッフと共に感受し得たことは、診療放射線技師として誠に恵まれた環境であったと感謝の念に堪えません。

私の職務歴が、知事表彰状に記載されています「多年にわたり公衆衛生の向上に寄与されその功績は顕著であります」に該当するか、大学病院（特に特定機能病院）の使命とされる「診療、研究、教育」の一翼を、診療放射線技師として担い得たかは甚だ疑問ですが、職場の仲間と共に日々診療放射線業務の内容を検討しながら問題点を抽出し、研究・改善を試み研鑽を重ねた、厳しくも楽しい日々を誇りに思います。また私にとって多年に渡る日本診療放射線技師会、埼玉県診療放射線技師会、各種学会発表、各種研究会、国際交流会、私立医科大学技師長会など、種々の活動から得られた経験と知識は、座学では決して得られない貴重な情報となり、放射線画像技術および職場の業務改善などに還元できているのではないかと考えています。

最後となりますが、今回の受賞に際しご尽力を賜りました本会の皆さまに謹んで御礼申し上げますとともに、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のさらなるご発展をお祈り申し上げます。



## 埼玉県知事表彰を受賞して

社会医療法人財団石心会 埼玉石心会病院  
間山 金太郎



このたび、埼玉県診療放射線技師会からの推薦をいただき、10月29日（月）に埼玉会館で開催された第62回埼玉県公衆衛生大会におきまして、公衆衛生事業功労者として県知事表彰を拝受致しました。

今回の受賞に際し、埼玉県診療放射線技師会の執行部の皆さまには、過分な評価を頂いたことに深く感謝申し上げます。

また、会誌への寄稿という自分自身を振り返る貴重な機会をいただけたことにも重ねてお礼申し上げます。

私には、今の自分があるのはこの方のお陰だと、心底思える方が三人おります。

一人目は高校時代、バスケットボールで関東大会やインターハイに連れて行ってくれた当時の監督。いかなる苦境にも耐え得る体力と精神力、そして今ではパワハラと言われても仕方ないほどの「理不尽」を抵抗なく受け入れられる寛容な心を授けてもらいました（笑）。「死ぬ気でやってみろ！絶対死なないから…」今でも私の人生観の礎はここにあると思っており、人格形成期の貴重な経験値です。

二人目は、石心会に入職してからできそこないの私を見放すことなく厳しくも丁寧に指導していただいた、放射線科医の木村弘志先生。残念ながら十数年前に別の施設に移られてしまいましたが、医療人として、そして診療放射線技師としての基礎をみっちり叩き込まれました。仕事に対する姿勢は今でも木村医師からの教えが基になっていると感じています。

三人目は、私がライフワークとして活動してきた循環器系の研究会で長きにわたり、ご指導いただいた現日本診療放射線技師会の中澤靖夫会長。常に向上心と熱意を持って研究に取り組む姿勢、そして組織のリーダーとしての考え方や立ち振る舞いを傍で拝見させていただき、到底足元にも及ばないながらも私自身大きな影響を受けてきました。

師として導いてくれたこの方々がいなかったら、怠け者の私はどんな診療放射線技師になっていたのでしょうか…。

自分を導いてくれる先輩、上司、師匠の存在は、自身で思っている可能性の限界を超えさせてくれます。若い皆さまには、ぜひ人生の中で尊敬できる方を見付け、その方から多くのことを吸収しながら自分自身を高めていってほしいと思います。

結びに、今回の受賞は「多年にわたる本県における公衆衛生の向上に寄与された功績」ということですが、これを私自身のゴールと捉えるのではなく、人生の中の一つの大きな節目として、今後も微力ながら「公衆衛生の向上に寄与」していきたいと思っておりますので、埼玉県診療放射線技師会の皆さまには今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

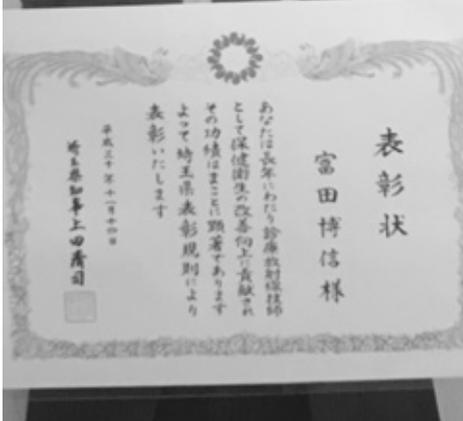
## 埼玉県知事表彰を受賞して（保健衛生功労）

済生会川口総合病院  
富田 博信

平成 30 年 11 月 14 日（日）、爽やかな秋晴れの中、埼玉会館大ホールにおいて埼玉県知事表彰を診療放射線技師として受賞してまいりました。私自身この受賞を大変光栄に思います。本年度は県内より 139 人が表彰され、私はその中の保健衛生功労を頂きました。

思い起こせば、済生会川口総合病院放射線技術科に平成 4 年 4 月 1 日付で着任し、以来、26 年間長いようで短かったように思えます。また埼玉県診療放射線技師会には平成 7 年以来学術委員、学術理事、学術常務理事を経まして、現在、副会長を仰せつかっております。

このたび、ご推薦いただきました公益社団法人埼玉県診療放射線技師会に感謝するとともに、今後も微力ながら、診療放射線技師として、県民の保健衛生向上に努めてまいります。



## 2018年度 MRI 基礎講習会の開催報告

学術委員 近藤 敦之

「専門技術者試験（性能評価）から学ぶMRIの基本知識」として、11月18日（日）に、埼玉県済生会川口総合病院で2018年度MRI基礎講習会が開催された。参加者数は13人であった。内容は以下の通りである。

### プログラム

2018年11月18日（日）

使用装置 Philips 社製 Ingenia3.0T

12:30～ 受付

13:00～13:30 「①均一性の測定」

13:40～14:25 「②T1値・T2値の測定, ①のレポート作成」

14:35～15:20 「③SNRの測定, ②のレポート作成」

15:30～16:15 「④スライス厚の測定, ③のレポート作成」

16:25～17:00 「④のレポート作成」

### 講師

埼玉県済生会栗橋病院	渡邊 城大
埼玉県済生会川口総合病院	棹山 孔太郎
埼玉県済生会川口総合病院	浜野 洋平
埼玉県済生会川口総合病院	丸 武史

磁気共鳴専門技術者認定試験の受験者は、装置の精度管理に関する性能評価レポートを提出しなければならない。本講習会は、性能評価実験とレポート作成を通して精度管理の理解を深める実習である。参加者は2つのグループに分かれ、講義・レポート作成と性能評価実験を交互に受講した。PhilipsのMRI装置を使用している受講者が多く、受講者から講師への質問も多かった。受講者は実習を通して性能評価のポイントを習得できていた。各自の施設で測定さえすれば、認定用レポートは容易に完成できると思う。最後に、講師の皆さま、受講者の皆さま、協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。



## MRI 基礎講習会に参加して

埼玉県立小児医療センター 佐藤 克哉

11月18日(日)に、埼玉県済生会川口総合病院で開催されたMRI基礎講習会へと参加させていただきました。人数は定員が決まっており、受講者一人に対して講師が多い印象を受けました。そのため疑問に思った場合でもすぐに聞きやすい雰囲気でした。

講義内容は、均一性、T1・T2値、スライス厚、SNRの4項目に関して、講義と実機によるファントムの設置やコンソールの操作を2班に分けて行いました。班分けをしたので、より少人数で、講師の方と近い距離で講習を行うことができました。ファントムの設置方法に関しても一人一人設置をするところまで実践させていただきました。

磁気共鳴専門技術者試験の際のレポート作成についても例を挙げて、詳しく解説をしていただきました。撮影条件などをどのように記載し、どういった理論で考察をしていくかなども分かりやすかったです。関数電卓を用いた計算やグラフの作成・読み取りなど、通常の臨床業務の場ではなかなか学ぶことのできない部分も同時に学ぶことができました。

講習会を受講するに当たり、1点だけ失敗したことがありました。事前に全ての測定項目について実機で取り組んでみてから、受講するべきだったことです。受講前に資料に目を通し、計算などの確認をしました。しかし、実際に講習をすると、悩む部分は実機を触っての部分が多いものと感じました。講師の方も実際の経験を基に多くのことを教えていただきましたが、その点だけは失敗したと感じました。質問しやすい雰囲気ということもあったので、自分なりに気になる部分を見つけてから受講をすれば、より充実した講習会になったと感じました。

私自身は1社のMRI装置しか操作したことがなく、MRI装置・メーカーによっても対応が異なることもこの講習会で初めて知りました。そういった部分に関して、どのように対応をしたほうがよいとパターン分けをして説明していただき、分かりやすく非常に参考となりました。

失敗もありましたが、受講したことで測定を試みようという気持ちが強まりました。これをきっかけに装置の基礎的な性能評価を検証して、自施設の装置の特徴を理解していきたいと思います。

講習会を企画していただきありがとうございました。

## MRI 基礎講習会に参加して

埼玉県立小児医療センター 持田 朋之

平成 30 年 11 月 18 日（日）に埼玉県済生会川口総合病院で開催された 2018 年度 MRI 基礎講習会～専門技術試験（性能評価）から学ぶ MRI の基礎知識～に参加させていただきました。昨年の認定試験の問題をベースに行われていたセミナーと異なり、今年度は性能評価について、ファントムの設定方法や測定の注意点、データの処理について実習形式で研修する形となっていました。

研修の内容としては、均一性の測定、スライス厚の測定、SNR の測定、T1 値・T2 値の測定を実習、座学、レポート作成の三点に重点を置いて講習していただきました。実習に関してはそれぞれの測定に必要なファントムの設置方法、必要なファントムの作成案、メーカーによる設定の注意点など実機を用いて行いました。私の施設にあるメーカーと同一の機械であったため、実践的な講習となりました。座学に関しては、それぞれの計測で得られたデータをどのように取り扱うのか実際のデータを基にまとめました。どのように目的の結果を得るのか、計算によってどの程度の誤差が出るのかなど実際に自分で行うことを想定した時に疑問に思う点について解消できる場となりました。レポートの作成に関しては記載する項目の書き方やポイントについて例を交えて解説していただきました。自施設でレポートを作成することを考えたときに非常に参考となる講習となりました。

今回の講習会に参加し、実際に装置を用いて研修することの重要性を感じることができました。私の施設にも計測に必要とされるファントムや装置があることは知っていましたが、その装置をどのように用いて測定を行うのか、どのような点に注意しなければならないのかなど気後れし、計測を行うまでに至りませんでした。しかし、今回の講習会を通じて測定に掛かる時間や、設置の仕方、測定によって得られる画像などを実際に知ることができ、今後自施設で行う際に今まで気後れしていた点に関しては解決することができました。

今回の講習会を通して、専門技術試験に対して本では勉強できない内容について学ぶことができました。最後になりますが、今回の講習会を企画・運営していただいた講師の皆さまに感謝申し上げます。

## 第17回 胸部認定講習会 開催報告

学術委員 土田 拓治

平成30年11月25日(日)、第17回胸部認定講習会が済生会川口総合病院で開催され、参加者は19人であった。本講習会は、胸部撮影の基礎から解剖・臨床まで幅広い内容で構成されており、各講師の講義内容も前回よりブラッシュアップされ、特に「胸部単純写真の読影法」では人体生理学的観点から非常に分かりやすい講義で受講生に好評であった。画像処理に関する講義では、われわれ診療放射線技師にとって必要不可欠な知識であるはずだが、苦手意識が強い印象を受けたので、次回も内容をより充実させ、魅力的な講習会を開催していきたい。ぜひ多くの方の受講をお待ちしています。

本セミナーの開催に当たり、施設設備の借用を快諾していただいた済生会川口総合病院の佐藤病院長、講師・スタッフ全ての関係各位に紙面をお借りし深くお礼申し上げます。

講義内容および講師は、以下の通りです。(敬称略)

### プログラム

1. 胸部単純写真の撮影法：滝口 泰徳 (上尾中央総合病院)
2. 装置の基礎：土田 拓治 (済生会川口総合病院)
3. 胸部のCT診断：染野 智弘 (羽生総合病院)
4. 胸部単純撮影の適正線量と被ばく：土田 拓治 (済生会川口総合病院)
5. 胸部撮影における画像処理について：浅野 省二 (富士フイルムメディカル)
6. 胸部単純写真の読影法：佐々木 健 (上尾中央総合病院)



## 平成 30 年度 診療放射線技師基礎技術講習（埼玉県） 消化管撮影講習会 開催報告

学術委員会 常務理事 今出 克利

平成 30 年 11 月 11 日（日）に平成 30 年度診療放射線技師基礎技術講習（埼玉県）「消化管撮影講習会」が、さいたま赤十字病院の多目的ホールで開催された。受講者数は 47 人（申し込み 56 人）で、県外の方にも多く参加いただいた。講義内容は JART の学習目標に則り行われ、真剣な眼差しで聴講している受講生が印象的であった。消化管 X 線検査を取り巻く環境は厳しいが、今回、多くの方に受講していただきニーズがあることを再確認したので、今後も継続して消化管に関する講習会を開催して行きたいと考えている。講習会のプログラムは下記の通り。

### プログラム（敬称略）

8:50～9:00	開講式・オリエンテーション	
9:00～9:45	X 線透視撮影装置の基礎知識	遠藤 亜矢子（株式会社日立製作所）
9:45～10:30	X 線透視装置の画質・性能評価	遠藤 亜矢子（株式会社日立製作所）
10:40～11:25	被ばく管理	工藤 安幸（東松山市立市民病院）
11:30～12:00	撮影技術-1 造影剤・鎮痙剤・下剤	竹内 修平（株式会社伏見製薬所）
12:00～13:00	昼休み	
13:00～13:45	撮影技術-2 上部消化管	池田 圭介（済生会川口総合病院）
13:50～14:35	撮影技術-3 下部消化管	今出 克利（さいたま市民医療センター）
14:45～15:30	受診者管理	今出 克利（さいたま市民医療センター）
15:35～16:35	読影・レポートニング	大森 正司（さいたま赤十字病院）
16:50～17:20	確認テスト	
17:25～17:35	閉講式（修了証書授与）	

終わりに、講師の皆さま、および講習会に参加していただいた皆さまにこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。



【講義風景】



【修了証授与】